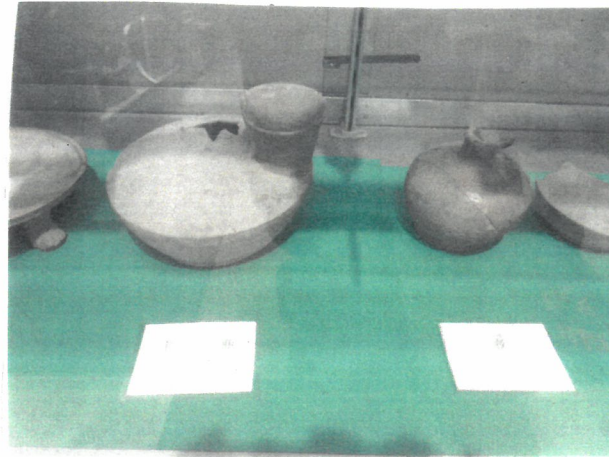


研究テーマ:

発見！カメ^{たに}谷^{かま}窯^{あと}跡

船木中学校 2年

鈴木 茉夏



目次

		(ページ)
1	調べたわけ	2
2	調べたこと	5
3	調べた方法	6
4	調べた結果	7
5	分かったこと	16
6	考えたこと・感想	17
7	参考資料	21

1 調べたわけ

♪ 九十九が谷の雨うけて 水満々の大池の
池心の月に向かうとき 我らが心磨くときー

小学校在学6年間 幾度となく歌ってきた船木小学校の校歌、
3番の歌詞である。この大池とは、池田池のことである。
船木校区にあるこの池は、「満濃 太郎、勝間^{かつま}の次郎、三谷^{みたに} 三郎
池^{いけ}苗^{なえ}の四郎」と古くから言われてきたように、四国有数の大きな池
である。現在では、香川県仲多度郡にある満濃池に次ぐ、四国で
2番目に大きな池であるそうだ。
この池田池を中心に整備されて
いる池田池公園では、毎年、多くの
校区の行事が行われており、私も
何度も参加してきた。6月の菖蒲まっ
り、7月のマンドリンコンサート



池田池

8月のラジオ体操とお池を囲む会、10月の新居浜太鼓祭り、夜太鼓、そして1月にはとうと祭り、2月には校区マラソン、駅伝大会などである。



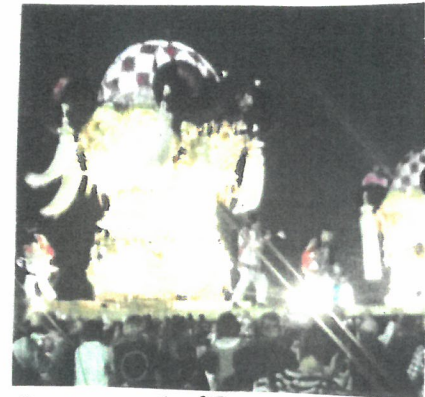
池田池公園案内図



菖蒲まつり



校区マラソン、駅伝大会



新居浜太鼓祭り、夜太鼓

今回、この池田池にスポットを当て、ふるさと船木のことを調べてみようとして、家にあった「船木物語」(平成15年船木公民館発行)の冊子を手にとり、ページをめくっていると、この池田池公園の中に、「カ谷窯跡」という遺跡があり、その窯は、船木が奈良時代に東大寺の荘園(新井庄)だったころ、開墾の進展に伴って築かれたものと考えられることを知った。

東大寺といえば、あの大仏様で有名な奈良時代の代表的な寺院であり、私も小学2年生のときに、訪れたことがある。奈良市は母が大学生のころに住んでいた所でもあり、母の友達の家方とっしょに寺院めぐりをしたのだ。

今から1300年近くも前から自分の住む船木とあの東大寺に関わりがあったことに驚くとともに不思議な縁を感じ、それを裏付けるこのカメ谷窯跡について詳しく調べたいと思った。



<仮説1>

東大寺から遠く離れたここ船木が荘園(東大寺の私有地)に選ばれたのは、池田の池と船木の木に関係があるのではないかと

<仮説2>

カメ谷窯跡の出土品は、東大寺と新井庄の発展のためになくてはならないものだったから、この窯がここに造られたのではないかと

2 調べたこと

- ① 池田池の歴史と新井庄にいのほ(新居荘)
- ② カメ谷窯跡の調査について
- ③ カメ谷窯の構造とその周辺
- ④ 出土品から

3 調べた方法

- ① 本や冊子、インターネットで得た資料などの文献をもとに調べる。
- ② 現地に行って調査をする。
- ③ 地域の史跡に詳しい合田修身さんからの聞きとり調査を行う。
- ④ 郷土資料室ふるさとラボ(新居浜市市民文化センター本館1階)に行って調べる。

4 調べた結果

① 池田池の歴史と新井庄(新居荘)

「船木物語」(平成15年船木公民館発行)によると、奈良時代(天平勝宝8年、西暦756年)に書かれた東大寺諸国庄々文書の中に、「池地 三町六反百十步号 栢坂古池」という記録がある。この「栢坂「がけさか」の古池」というのが池田池の前身である。池地「いけち」というのは池の面積のことである。「三町六反百十步ほどの大きな古い池があった」ということになる。奈良時代にすでに古池と呼ばれていたことから、池田池はおそらく古墳時代からあったものと考えられる。

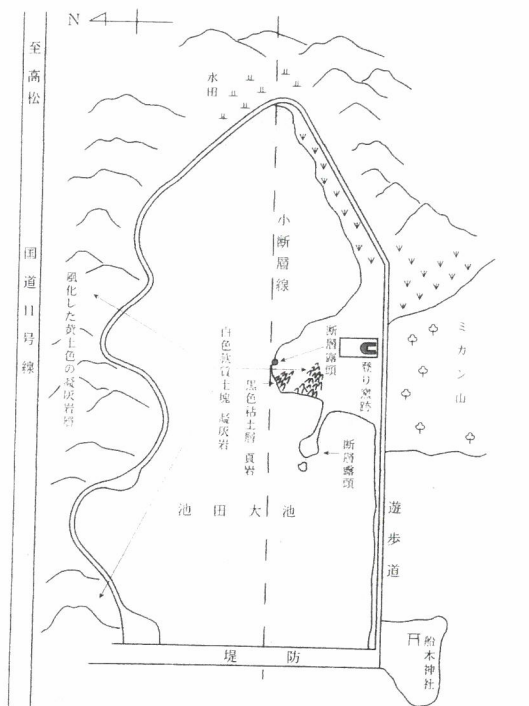
また、同じく天平勝宝8年(西暦756年)に伊予の国司が庄(墾田永年私財法により私有地として認められた初期荘園のこと)の四至(4つの境目)を定めた文書(東大寺の史料)の中に

東大寺の荘園である新井庄にいのしょう（後に『新居荘』と記す）の
四至（境目）は「東はまみやま離山（今の関の戸）、西は多豆河（今の国領川）
南はたじゅうかきどう駿路（船木を通る太政官道「南海道」）、北は小野山（今の郷山）」
とある。ほぼ現在の船木地区に当てはまる。つまり船木地区は、
奈良時代に東大寺の荘園であったということになる。そのことを示す
東大寺の荘園について書かれた古文書が多数残っている。それらの
記録から、この新井庄（新居荘）は、約400年も続いたが、平安時代
から鎌倉時代にかけては武家勢力によって荒廃していったとい
うことである。

② カメ谷窯跡の調査について

昭和27年（1952年）2月、船木1538番地の2（現在は
池田池公園内）の果樹園で真鍋修身氏（新居浜市文化
財保護委員会専門委員、日本考古学協会員）により須恵器が
多数発見された。

新居浜西高等学校郷土文化部により、研究が進められ、崖面に露出していた窯壁に付着した灰が発見されて注目されるようになった。その後愛媛大学の電気工学教室の松岡文一先生等により、付近の電気探査がなされ、昭和37年(1962年)8月に新居浜市教育委員会による発掘調査が行われた。これには船木中学校の生徒も応援参加をした。



古代窯跡略図 奈良時代
(1200年前~1300年前)

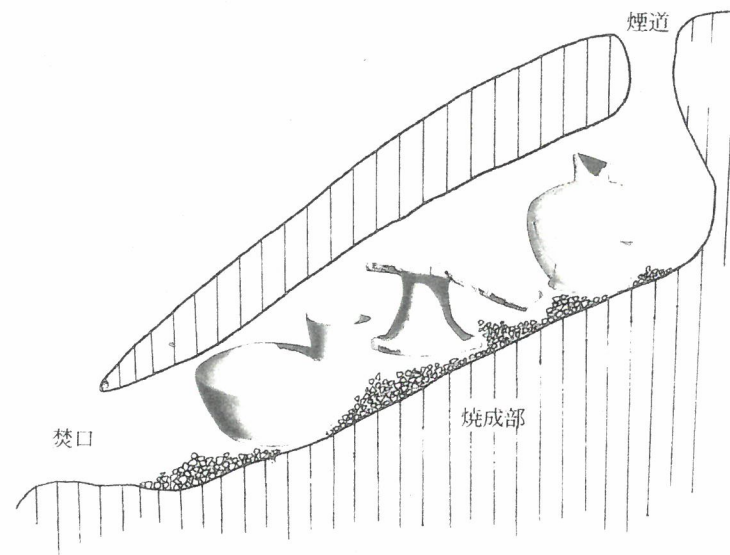


カヌ谷窯跡発掘調査の様子

③ カメ谷窯の構造とその周辺

松岡文一氏を主任として行われた発掘調査により、この窯は、小丘の南西斜面にそって半地下につくられたもので長さ約7mの^{のぼつぼま}登窯であることが分かった。つまり、縄文や弥生土器の^{のしやまかま}野焼窯に比べ、高温(1000度以上)で焼成するため、ここで焼かれた土器は^{こうしけんち}硬質堅緻であるということである。

これらの土器のことを須恵器^{すえき}という。



カメ谷窯跡想像図

現在のカメ谷窯跡の様子は、下の写真のようになっている。池田池の^{盛り}増設工事のときに削り取られていて、昔の姿はない。遊歩道の入口付近に立て看板があり、その東側には日本庭園、傾斜を上ると芝生広場が広がっている。



芝生広場



日本庭園



史跡を示す立て看板とその周辺



遊歩道

また 古代窯跡略図にある、^{たんとう}断層露頭や粘土層を求めて
池のそばを歩いてみた。粘土質の小さなかたまりがたくさんあり、
一つ手にもって力を入れると、きれいな断面で2つに割れた。



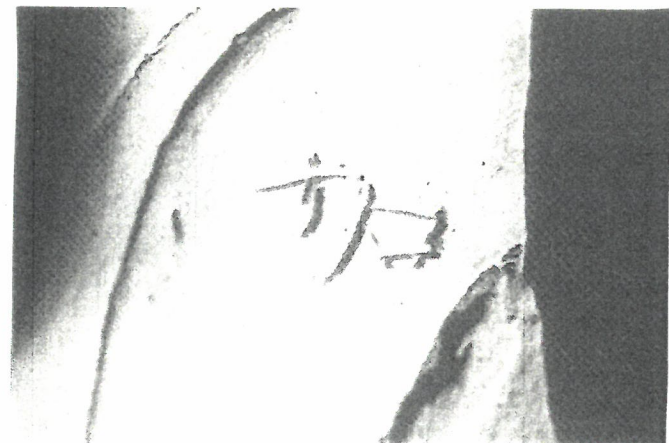
④ 出土品から

カメ谷から出土した須恵器は、^{小た}蓋、^ス杯、^{たが}高杯、^{はら}鉢、^ま壺、^{すり}硯、^{から}瓦などであり、その形状から8世紀中頃～10世紀頃のものであることが分かった。よってカメ谷窯跡は、東大寺領新井庄の窯跡と考えられる。

カメ谷窯跡の出土品の中には、「庄」・「加」などの文字を刻んだ奈良時代の須恵器がある。「庄」は、^蓋蓋のつまみの部分に、「加」は^{たが}高杯の底部の外面に刻字されている。「庄」は新井庄で使用されることを意味していると考えられ、「加」は生産数量のことを示しているが窯の屋号を示しているのかは、きつとはしないが、その意義が注目されている。



「庄」=「庄」



「加」

カメ谷窯跡のことを、校区の史跡に詳しい合田修身さんに尋ねてみた。合田さんは、船木校区まちづくり実行委員をされており、船木校区徒歩探訪会など公民館行事での講師や小学校での郷土にまつわる学習においてゲストティーチャーを務められている。また兼SPC船木の理事でもあり、特に地域のバドミントン振興に力を注がれている。私も小学校1年生でバドミントンを始め、合田さんにはコーチとしてずい分お世話になってきた。



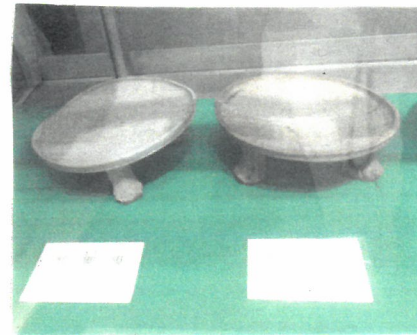
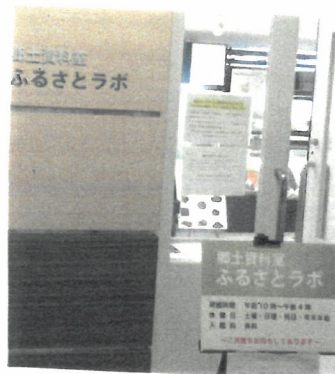
小学校3年生のときの校区マラソン大会で
(新居浜まちづくりをばさんで左が合田さん、右が私)



合田さんと私 - 小学校体育館にて -
(合田さん執筆の「船木史跡のまちづくり」を手に)

合田さんから、カメ谷窯跡の出土品のうち、「^{えんめん}円面硯」や「^{じゆうていけん}獣足硯」は、
 窯跡からの出土品としては、県内では他に類を見ない第一級の
 ものであることや、「^{どば}土馬」は水に関連のある祭祀遺物として位置
 づけられているものであり、奈良の^{なげ}平城宮跡からも出土しているもので
 あることを教えていただいた。また出土品は郷土資料室
 いるさとラボ（新居浜市市民文化センター 本館1階）に展示されている
 ことを聞き、さっそく行ってみた。

資料室の担当の方に丁寧に説明していただき、
 文献にあった文字の刻まれた蓋や獣の足の形
 がついた獣足硯、合田さんに教えてもらった土馬などを
 実際に目で見て確かめることができた。



5 分かったこと

ここまで調べて分かったことをまとめると 次の4つのことが挙げられる。

- ① 私のいうさと船木には おそらく古墳時代から 池田池という大きな池があった。
- ② 船木地区が奈良時代に東大寺の荘園「新井庄」のあった場所であるということは、多数の古文書に示されている。その池田の大池の南側にカメ谷窯跡がある。
- ③ カメ谷窯跡の出土品の形状等から、カメ谷窯跡は地理的にも時期的にも東大寺領「新井庄」のものであったと思われる。
- ④ カメ谷窯跡の出土品の中には、文字の刻まれたものや第一級のもの、奈良の平城宮跡から出土しているものと同様なものがある。

6 考えたこと・感想

〈仮説1〉について

東大寺がなぜ船木を荘園にしたのかについては、池田の大池の存在が関わっているように思う。今回の調査により、池田池は古墳時代にはすでにあったと考えられることがわかった。また船木地区に質のよい木が昔からあったことは「船木」という地名から推測できる。「船木物語」の中に、「西条誌」(江戸時代後期に伊予西条藩の儒学者日野和照が編さんした地誌)に、「船を造る木材を産出することから船木という地名が^{にこて}ついた」と記載されている。さらに郷土資料室で、神功皇后(ヤマトタケルのミコの子、仲哀天皇の皇后、応神天皇の母、初の摂政として約70年間君臨したとされる。)が三韓征伐に向かう船を造ったときに木材を提供したことから船木の地名が^{にこて}ついたということを教えてもらった。すなわち、奈良時代、船木は水と木に恵まれた土地であることがすでに知られていたものと思われる。登り窯で須恵器をつくることができたのも、原料となる土と水、そして窯の燃料となる木があったからこそである。そう考えると、やはり船木が東大寺の荘園に選ばれたのは、池田の池と船木の木があったからと考えるのが自然であると思われる。

〈仮説2〉について

新井庄は、米の生産地よりも林野的資源としての価値が高かったようである。開墾はあまり進まなかったようである。それでも東大寺の荘園として目録に名を残し、長きに渡り、東大寺によって維持されていたことが記録されている。

またカメ谷窯跡の出土品には文字の刻まれたものや一般品の硯、水関連の祭祀に使われ平城宮跡からも出土されている土馬が見られる。カメ谷窯跡でつくられた須恵器類は、新井庄の開墾経営のために、5世紀に大陸から導入された窯業の技術をもつ、文字を読み書きできる専門の工人によってつくられたと考えられる。硯を使用したのは僧侶や官人であろうと考えられ、獣足硯や土馬は同様のものが奈良でも出土していることから、東大寺との関わりが深かったことが推測される。

これらのことからカメ谷窯での須恵器生産は開墾以上に新井庄の開墾にとって重要なものであったと言えるかもしれない。そのことを確かめるには、さらなる研究が必要である。

今回 カメ谷 蹊跡 のことを調べてみて、感じたのは、矢張りとしなければ
気づけないことがたくさんあるということだ。

あれほど何度も言われていた池田池公園だけだと、ずっとそこにあった看板に
今まで気づかずにいた。知らないままでいたことの中に、深い歴史が
刻まれていた。

長い時を隔てていても、同じ場所で生きる者として、私達は地域'の
先人達と同じようなことを感じ、同じように何かにより一生懸命になっ
ているのかもしれない。何気ない私達の暮らしも、そうやって、ここで
生きてきた人々がいたからこそ成り立っているのだということに
改めて気づかされた。

この研究レポートを作成している期間に、ESD活動で^{また}真谷川の
生態調査に参加した。真谷川は、ニホンイシガメヤクサガメが
生息しているということで、追跡調査がなされている。

真谷川と池田池は一番近いところでは1kmほどしか
離れていない。もしかしたらこの辺りにはカメが多く生息して
いたためにカメ谷と名付けられたのかもしれないと思った。

また、冒頭の船木小学校の校歌の作詞者は合田修身さんの
大叔父様にあたる合田誓逸^{せいいつ}さんだと言われていることを
今回初めて知った。明治の終わり誓逸さんが船木小学校の
準訓導じゆんくわう（一部の資格をもつ教師）であつた18才ごろに作詞した
ものだということである。船木の四季折々の美しい自然と、そこに
生きる人々の心の素さをうたつたこのすばらしい詞の作者が
意外にも身近な人であることを知り、より好きになった。

知れば知るほどいろいろな発見があり、ふるさと船木のことか
誇らしく思えてきた。これからも気づけていそう気づけていなかった
船木のよさや歴史に刻まれた人々の力強い生き様に目を向けてい
きたい。

7 参考資料

- 船木物語発行委員会、船木物語、船木公民館、2003年
- 愛媛県生涯学習センター、データベース『えひめの記憶』愛媛県史、閲覧日 2020-08-15
<https://www.i-monabi.jp/system/regionals/reginals/ecode:2/61/view/7734>
// 162/view/7783
// 168/view/8795
- 船木校区まちづくり推進委員会、船木史跡めぐり、船木公民館、2017年
- 新居浜市教育委員会、ふるさと学習資料めぐり!!新居浜ものしり博士、2017年
- 文化遺産オンライン、西条誌、閲覧日 2020-08-19
<https://banka.nii.ac.jp/heritages/detail/255335/9>
- wikipedia、神功皇后、閲覧日 2020-08-21
<https://wikipedia.org/wiki/%E7%A5%9E%E5%8A%9F%E7%9A%87%E5%90%8E>
- 日本シイタール、日本とイタリヤの歴史 - SP63 建國に貢献した船木氏の真相
- 卓越した造船技術を用いて国家安泰に尽力した一族 - 2016.3.31
閲覧日 2020-08-21
<http://www.history.jp.com/article.asp?kiji=250>
- 真鍋充親、鴫上町三郎翁 船木の風土記、新居浜郷土史談会、昭和51年